

The 39th

TOKYO MOTOR SHOW 2005

Passenger Cars & Motorcycles



News

vol. **12**

平成17年10月31日

第39回東京モーターショー2005

乗用車・二輪車

"Driving Tomorrow!" from Tokyo みんながココロに描いてる、くるまのすべてに新提案。

クロスオーバー発想で、新しい価値を創造

富士重工業



独自のハイブリッドシステムを搭載したコンセプトカー「B5-TPH」と参考出品「スバル360」(右上)

「Think. Feel. Drive. ——クロスオーバー発想で、新しい価値の創造を。」——第39回東京モーターショーにおける富士重工業のテーマである。スバルが最も得意とする「走りの愉しさ」をはじめ、「高い安全性能」、さらに、「優れた環境性能の実現」などを意欲的にアピールしているのが特徴だ。

東ホールにあるスバルの展示ブースはステージを照らす蛍光色の照明とシンプルなデザインが清潔感を漂わせる。中央ホール側通路との境は化学式の記号である六角形の“亀の甲”をイメージさせるモチーフで覆われ、天井にも大きな“亀の甲”が7つも吊されるなど、次世代の最先端技術の開発に真剣に取り組む企業姿勢が伝わってくる。

今回の出品車両は、「スバル360」(参考出品車)やクリーンエネルギー車同乗試乗会で使用されている電気自動車「R1e」を含めて17台。

世界初公開のワールドプレミアは独自のハイブリッドシステム「ターボ・パラレル・ハイブリッド(略称:TPH)」を搭載したコンセプトカー「B5-TPH」のほかに、技術展示コーナーでは「走り」と「安全」を高次元で融合させた次世代の知能自動車コンセプト「IVX-II」、さらに、実際と同じラリー仕様のインプレッサのボディに乗車し、ラリーコースを自分で運転できるドライビングシミュレーター「SUBARU RALLY CHALLENGE」の3つに絞り込んでいる。

また、新型クロスオーバー車「B9 TRIBECA」(北米仕様車)と2006年のWRCモンテカルロラリーで実戦デビュー予定の「インプレッサWRC 2006 プロトタイプ」はジャパンプレミアとして出品。水平対向エンジンを核とした4輪駆動システムで独自の世界を築き上げてきたスバルの新提案に熱い視線が集まっている。

走りの愉しさ、高い安全性能、優れた環境性能を披露



新型クロスオーバー車の「B9 TRIBECA」



WRC ラリーなどに参戦の「インプレッサ WRC 2006 プロトタイプ」



次世代の知能自動車
コンセプト「IVX-II」



クロスオーバー車の方向性のひとつを示す「フォレスター“Edge”style」

異なる価値を融合させることで新たな機能や愉しさを創造した車両や技術を披露しているスバルブース。そのクロスオーバー発想を象徴しているのがメインステージ左サイドのコンセプトカー「B5-TPH」である。「2人の小旅行」をテーマに、独自のシンメトリカルAWD（全輪駆動）に優れた環境性能と走りの愉しさを備えたハイブリッドシステムを搭載。「水平対向ターボガソリンエンジンと電動モーター」、「スポーツワゴンとSUV」など、さまざまな要素を重層的に融合させ、機能性と快適性を実現したミドルクラスのスポーツタイプのスペシャリティーカーを提案している。

メインステージ右サイドの「B9 TRIBECA」も注目度の高い参考出品車。次世代クロスオーバー車を提案する「革新的SUV」をコンセプトに開発した。7人乗りの大きなキャビンを持ち、水平対向6気筒エンジンを搭載し、SUVとしての走破性と乗用車としての俊敏かつ安定した走りを実現。3列シートをはじめとする機能的な装備に加え、スポーティで躍動的な存在感を持つエクステリアと、運転の楽しさと安心感をもたらすインテリアに、クルマづくりのこだわりを感じる。今回の展示車は北米専用モデルとして今年6月に発売されたものだが、来年以降の日本導入も検討中。竹中恭二社長は「米国における衝突実験で最高得点を得るなど、安全技術でもトップクラスである」などと強調した。

スバルは「高い安全性能」、「優れた環境性能」の視点から技術展示にも力点を置いている。ブース中央のステージには、「IVX-II」のシステムがわかるカットモデルを展示。コンパニオンの説明に合わせて、ステレオカメラとミリ波レーダーを組み合わせた独自の前方認識装置などにランプが点滅するため、簡単にメカニズムを知ることができる。通常走行時は快適な走行をアシストし、危険な状況では運転を肩代わりして自動的に緊急回避行動を行うなど、事故を未然に防止する画期的な安全技術である。

スバルブースで一番の人気スポットは、WRCラリーなどに参戦している「インプレッサ WRC2006 プロトタイプ」などのモータースポーツコーナー。スバルブランドを愛する熱狂的な“スバリスト”たちで、ブースから溢れるばかりの人だかりである。

ブリーフィング コラム



「Think」, 「Feel」, 「Drive」で
クルマづくりに挑む。

富士重工業
竹中 恭二 社長

スバルは世界に先駆けたクロスオーバー発想によって、次々とクルマ文化に新しい提案をしてきました。常に自由な発想でクルマづくりに挑み、クルマの未来を広げていくことが、スバルが果たすべき役割なのだと考えています。

そのために、私たちはこれからも「Think(先を見通す知性)」、「Feel(卓越した感性)」、「Drive(走る愉しさ)」をクロスオーバーさせ、新しいクルマの価値を生み出していきたいと思っています。その取り組みの一端を今回の東京モーターショーでも披露していますが、これからのスバルにどうぞご期待ください。

夢のスーパーカー「オロチ」挑戦。今回はガルウイングドアのオープンスタイルモデル。

スーパーカー「オロチ」のデザインスタディコンセプトモデルを、光岡自動車はショー初参加以来3回連続して出展しており、今回の提案はオープンスタイルの「オロチ ノードトップロードスター」(ワールドプレミア)。前作の「ロードバージョン プロトタイプオロチ」をベースに開放されたデザインとガルウイング式ドアを採用、グラマラスなボディにシャープさが加わった“美しく、カッコいい”シルエットを描いている。光岡の夢への挑戦が発展していることを証明する作品だ。

この他に、市販中のいずれもクラシカルで独創的なセダン「ビュート」、「ヌエラ」、「ガリユ」の3台を展示、キットカー「K-3」とその完成車「マイクロタイプF」を参考出品している。



来場者の注目を集める「オロチ ノードトップロードスター」

IMPORTED EXHIBIT

外国車展示ブース

ヒュンダイ SF映画に登場してくるようなCUVコンセプトモデル



近未来的な味わいが楽しめるCUVコンセプトカー「NEOS-3」

ワールドプレミアの「NEOS-3」は、SUVとプライベートジェットをひとつに融合させたCUV(クロスオーバー・ユーティリティ・ビークル)と呼ばれるコンセプトモデル。



新世代セダン「グレンジャー」

4.6リッターV8エンジンを搭載するボディはSF映画に登場してくるような、シンプルで滑らかな紡錘形スタイルとシャープなオーバーラインを併せ持つ独得な造形。3列シート、6人乗

りで、インテリジェントな安全装備、エキサイティングなフロントシート回りなどすべての作りが近未来的だ。

エグゼクティブセダン「グレンジャー」は日本初出品。3.3リッターV6エンジンを乗せた5速AT車で、ダイナミックな外観と気品のある上質な味わいのインテリアが特徴。来年の日本発売が予定されている。

KIA ジャパンプレミアの3台を出品



5ドアハッチバックの「キア スポーツコンセプト」

を組み合わせた欧州スタイルの5ドアハッチバック車。

「キア マジェンティス」は世界市場を標的とした高級感溢れるミドルセダン。「キア スポーテージ」はラグジュアリーなコンパクトSUVだ。

出品3台はすべてジャパンプレミア。「キア スポーツ コンセプト」は、2リッターターボエンジンと電子制御の5速AT

ポルシェ 伝統の「ボクスター」、「911カレラ」の新バージョンを出展



「911 カレラ」のオープントップ4WDモデル
「911 カレラ4S カブリオレ」

切れ味抜群の「ケイマンS」

ポルシェの代表出品車は、オープントップ2シーター「ボクスター」のクーペモデル「ケイマンS」。新設計の3.4リッター水平対向6気筒エンジンを搭載し、0-100km/h加速タイムはわ

ずか5.4秒。最高速度275km/hに達するが、エンジンのミッドシップ搭載と2シータークーペボディの組み合わせで安定性と運転性能の切れ味は抜群。410リッターの大容量トランクと大きく開閉するリアリッドも魅力的だ。

伝統の「911カレラ」のオープントップ4WD「911 カレラ4S カブリオレ」の出品も見逃せない。「911」に共通する自動ドライバー支援システムや最高水準の安全装備をそなえている。以上の2台はジャパンプレミア(JP)の参考出品車。JP出品では他に「911カレラ4クーペ」、レーシングマシン「911GT3カップ」がある。

「目からウロコ!」 エコドライブってとっても簡単・発見・驚き」

■司会進行

鈴木万由香氏 (Tokyo FM パーソナリティ)
シキタ 純氏 (エコパーソナリティ/Tokyo FM パーソナリティ)

■ゲスト

保阪尚希氏 (俳優)
長谷川理恵氏 (モデル/Tokyo FM パーソナリティ)
荻田 潔氏 (モータージャーナリスト/JAF交通安全委員)
和田由貴氏 (節約主婦)

■主催: 環境省

(社) 日本自動車工業会、(財) 省エネルギーセンター、(独) 環境再生保全機構

地球温暖化を防止するには、その原因となる二酸化炭素(CO₂)などの温室効果ガス(GHG)の排出、発生を抑制することが不可欠。少しでもCO₂を減らすには、燃費の向上が有効であることは言うまでもない。シンポジウムでは誰にでも簡単にできる有効なCO₂削減策の一つで、ガソリン価格高騰の中で経済的にも節約効果のある「エコドライブ」についてそれぞれの視点から話し合



われた。「カーエアコンのスイッチもマメに切る」というカーレースの出場経験豊富な保阪尚希さんに対し、「余りに掛けていなかった」とドライブが大好きという長谷川理恵さんが、日頃のドライブテクニックからエコライフまでを披露。会場では全員参加型の大規模地球温暖化防止活動である「チーム・マイナス6%」への参加を呼びかけた。

特別企画 交通安全スペシャルトークショー

「オヒョイ」藤村さんら登場し、安全トークを披露



10月30日午後1時35分から、特別ゲストを招いての「交通安全スペシャルトークショー」が開催され、同トークショーの最終日にふさわしい盛り上がりを見せていた。

ゲストは「秋の交通安全運動」のメインキャラクターを務めるタレント、藤村俊二さん、04年世界トライアル選手権優勝者の藤波貴久選手、モータージャーナリストの竹岡圭さん。藤村さんは「高齢者ドライバーは夕暮れ時に目がぼやける。早めのライトオンを」、藤波選手は「バイクのすり抜けはあぶない。クルマ、バイクが互いに認識を」、竹岡さんは「小柄な女性は運転席からの視界が狭い。そういう女性の事情を汲んでほしい」と、それぞれの立場から、交通安全について生トークを披露した。

TOPICS トピックス

愛煙家に“快適”な喫煙コーナー 中央モールに3ヵ所

会場内の喫煙コーナーは、2階中央モール3、4、8番ホール出入口の反対側に3ヵ所設けられている。

どこも同じガラス張り囲いで、28m³のフロア内に灰皿を兼ねた空気清浄機が3台置かれ、収容規模は24人。今年4月に設備された最新施設で、とくに換気能力が抜群。1台当たり2,600m³/時間という強力換気扇が壁面裏側に取り付けられており、実際には40人ぐらゐが中でスパスパやっても、空気の汚れがほとんど感じられない。愛煙家にとって“快適空間”というわけ!



換気能力抜群の喫煙コーナー

今日のイベント (予定)

2005年10月31日 (月)

* シンポジウム

13:00~17:00 接続可能なモビリティへの一歩
(国際会議場 2 階・国際会議室)

* bay fm 生放送

13:30~14:00 フェスティバルパーク (西休憩ゾーン)

* ジャグリングパフォーマンス

12:45~13:15
14:45~15:15
16:00~16:30 フェスティバルパーク (西休憩ゾーン)

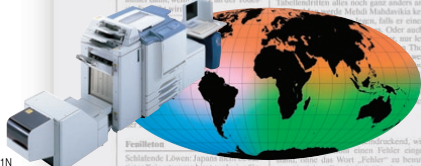
* クリーンエネルギー車同乗試乗会

10:30~16:30 特設専用コース
(幕張海浜公園内 メッセ周辺公道)

※天候等の都合により予定が変更になる場合があります。



ON DEMAND PUBLISHER C-51N



ご存知ですか?
コニカミノルタ オンデマンドプリントシステムは、

世界56ヶ国の主要新聞276紙をサポート。

The essentials of imaging
...the world's most important news...
...the world's most important news...
...the world's most important news...

このニュースは コニカミノルタ
ON DEMAND PUBLISHER
C-51N で出力しています。

コニカミノルタ ビジネスソリューションズ株式会社
ODI 事業部
TEL 03-5205-7820
Email odi-info@bj.konicaminolta.jp
URL http://www.ebook-print.com

TOKYO
MOTOR SHOW
2005

10月30日の入場者数 146,200人
入場者数累計 811,500人

東京モーターショーニュース Vol.12 2005年10月31日発行
発行所 社団法人 日本自動車工業会 広報室
〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目1番30号 日本自動車会館
TEL.03-5405-6119 FAX.03-5405-6136
WEB SITE www.tokyo-motorshow.com

JAMA